

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise



発行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 令和6年1月31日



二十四年 新年の御挨拶



橋(岩崎) 廣治 (当協会会長)

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員、並びにご家族の皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

日本、パプア・ニューギニアを含め世界の人々はコロナ禍が終息しつつあるものの、ウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争が継続している中で、新しい年を迎えました。

日本ではお正月早々能登での地震、羽田空港での飛行機事故、またパプア・ニューギニアでは暴動が発生するなど、波乱の年となりそうな予感が致します。

個人的な話になりますが、私は能登の穴水町の出身です。都市部ではなく穴水町の中心から車で三十分ほどの海岸線の小さな村です。今でも親類が住んでいます。ささやかに稲作をしています。

地震直後に従兄弟の一人と連絡がつかしました。親類

全員が公民館に避難していたのですが、「問題は色々あるけど大丈夫。全員無事だしコメは家にある」とのことでした。

私が受けた印象は、正直に言えば（私もその一人なのですが）田舎の人は「強いなあ」というものです。

日本、パプア・ニューギニアにおいて、これからも問題が色々起きるかもしれませんが、原点に戻れば対処できます。

災害も事故も暴動も我々にはどうにも止めようがありませんが、我が協会は、どのような状況下にあっても、少しでも可能なことを行うの覚悟で、その歩みを止めることなく、パプア・ニューギニアとの友好関係の促進に努めて参ります。

本年も引き続きご支援ご協力の程、何卒宜しくお願いいたします。

(編集部より) 橋会長は、昨秋の叙勲で瑞宝中綬章をお受けになられました。11月13日に伝達式が執り行われ、天皇陛下に拝謁されました。長年のご功績に祝意を表したいと存じます。

橋会長は、外務省入省後、インドネシア（ジャカルタ、メダン）、豪州（キャンベラ）、ブルネイにご勤務の後、2010年（平成22年）から2014年（平成26年）まで、パプアニューギニア駐^{ちゅうきつ}特

命全権大使を務められました。また2010年10月19日よりソロモン駐^{ちゅうきつ}特命全権大使も兼務されています。

なお、「東南アジアにおけるイスラム過激派事情」（近代文芸社新書2004/11）等の書物も出版されています。



ポポンデッタの思い出 ～アレクサンドラ・トリバネアゲハを求めて～

及川 正博 (当協会 副会長)



アレクサンドラ・トリバネアゲハの♂と♀ (標本写真)

今年は時機を見てオロ州ポポンデッタへ行きたいと思っている。目的は、この地に生息する世界最大の蝶、アレクサンドラ・トリバネアゲハとの再会を果たし、その保護活動の実態調査と、この蝶の観察を兼ねたエコツアーの可能性を探ることだ。ポポンデッタへは2015年に「PNGにおける持続可能な産業としてのバタフライ・ファームの現状と課題」という研究で調査に行ったことがあり、三つある保護区の一つケララ村でメスの飛翔を目にすることができたのだが、残念ながらオスを実際に見ることはできなかった。したがって、その雄飛を今一度この目に焼き付けておきたいと思っている。この蝶はCITESで絶滅危惧種に指定されている。4,000人が亡くなったとも言われている1951年のラミントン山の噴火の影響で、その生息地が大幅に失われ、幼虫の食草ウマノズクサが減少し、加えて、パームオイル生産のために生息地の森林がアブラヤシに取って代わってしまったのだ。

目下の生息地はアフォレ地区以外、上記のケララ村、ヴォイヴォロ村とホームバレタ村が中心で、これらは州政府により保護区に指定され、看板も立てられている。ヴォイヴォロ村は、私の訪問時は、村長のハウロ氏が直々にジャングル内を案内し、蔓に付いたアレクサンドラの蛹の幾つかを見せてくれた。ホームバレタ村では、村長が亡くなったので、奥さんに保護の実態について話を聞いた。ケララ村では、村長ら十数人の村人から歓迎を受けた。午後3時過ぎにこの蝶が現れると言うので、しばらく待つと予告通り大きな薄黒いメスが、小鳥が飛ぶように現



ヴォイヴォロ村のハウロ氏と



トリバネアゲハの蛹

れた。私は、とっさにカメラを向けてその雄姿を撮影したが、周りの生い茂った木の葉や蔓などに紛れてははっきりとその姿を写真に収めることができなかった。次回には、そのリベンジを果たしたい。最近の知見では、この蝶を取り巻く状況はますます深刻の度を深めているという。オロ州の州旗にもデザインされ、PNGが世界に誇る「宝」でもあるこの蝶の保護活動に少しでも寄与したいというのが私の現在の心境である。

そこで、私が提案したいのは、保護区におけるアレクサンドラの観察や保護活動と各村の人々との交流を兼ねたエコツアーだ。ケララ村では、到着するや否や村人が歌を歌い両手を掲げて列を作り、その中へ私を通すという歓待を受けた。心づくしのご馳走を頂きながら、稲作や養豚など村での生活に関する興味深い話を伺ったが、その際、



ホームバレタ村の子供たち



ケララ村でガイドのマライサ氏と

ことだった。簡単な脱穀機を提供できればと思う。ヴォイヴォロ村では、村長から蝶を見たいならいつでも宿を用意すると言われたので、正式な許可を取って蝶の採集を楽しむことも可能だろう。村でのタロイモ、ココア、パームオイルや天然ゴムの生産現場の見学なども面白いだろう。ポポンデッタは、北部海岸のブナに近く、ラミントン火山、第二次世界大戦中ポートモレスビー攻略を企図した日本軍進軍の始点であるココダ・トラックなど、いくつかの観光資源に恵まれ、村中心のエコツアーと結びつけて、日本からのツアー客を呼び込むことができないか。また、彼らが落とすお金をアレクサンドラ保護の資金に活用できないか、知恵を絞って行きたいので、賛同者には是非、連絡をお願いしたい。



ケララ村での食事風景



ケララ村の村長と

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

2024年1月17日に新たに一等書記官が日本に到着致しました。
名前は Ms. Martinez Wasuak（マルティネス・ワズアック）といいます。
主人と8歳の息子とメイドさんの4人で来日致しました。
2014年に Divine Ward 大学を卒業し、PNG 外務省のアジア部に
研修員として入省致しました。

その後、大分の APU-立命館アジア太平洋大学に JICA の留学生として、
2021年の6月より2022年の9月まで所属していました。コロナ禍だった為、
オンライン授業などが主でありあまり外出や遠征はできなかったため、
東京に来ることはありませんでしたので、APU 時代の羽田空港から大分空港への
乗り継ぎ以外の初上陸の東京です。

趣味はポエムや文芸（creative writing）などです。

今後いろいろな場面で大使と共に皆様にお会いできることを楽しみに致しております。



渡邊 信之（駐 PNG 日本大使）

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いたします。

日本では能登半島地震が発生し、多くの方々が困難を抱える中新年を迎えることとなりました。あらためて、被災された方々へ心からのお見舞いを申し上げるとともに、今なお過酷な避難生活を余儀なくされている皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

パプアニューギニアでも、1月10日に発生した政府職員への給与減額に端を発した一連の暴動によりポートモレスビー市内全域に非常事態宣言が発令され、一時急激に治安が悪化する事態となりました。幸いにも市内は落ち着きを取り戻し、同月24日を以て非常事態宣言も解除される運びとなりましたが、国内経済や政治情勢への影響は決して小さいものではなく、マラペ政権として苦しい舵取りを迫られる幕開けとなっています。

厳しい滑り出しとなった2024年ですが、当地においても少しずつ外交活動が始動してきています。前述の治安情勢の悪化を受けて実施された内閣改造ではトカチェンコ議員の外務大臣復帰が公表されたほか、就

任直後の先週22日は本年初となる同大臣主催の顔合わせ会合が開催され、他国外交団や国際機関関係者と共に私も出席しました。会議の中でトカチェンコ大臣は、今回の事態により失墜したパプアニューギニアに対する国際社会からの信頼を取り戻すべく粉骨砕身臨んでいくこと、また、各国との二国間関係を更に発展させるべくこれまで以上に積極的な外交活動を実施していくとする力強いメッセージを発信しました。10回目となる日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議（PALM10）が開催される本年、日本としてもこれまでに培ってきたパプア

門松飾りの大使公邸入口にて



ニューギニアとの絆を一層強固なものとし、二国間友好関係を大いに発展させる年となるよう励んで参ります。



トカチェンコ大臣主催顔合わせ会合にて

私ども堀内貿易(株)はパプアニューギニアのクロコダイルを鞣製染色した皮革を販売し、世界にクロコダイルの魅力を発信している会社です。

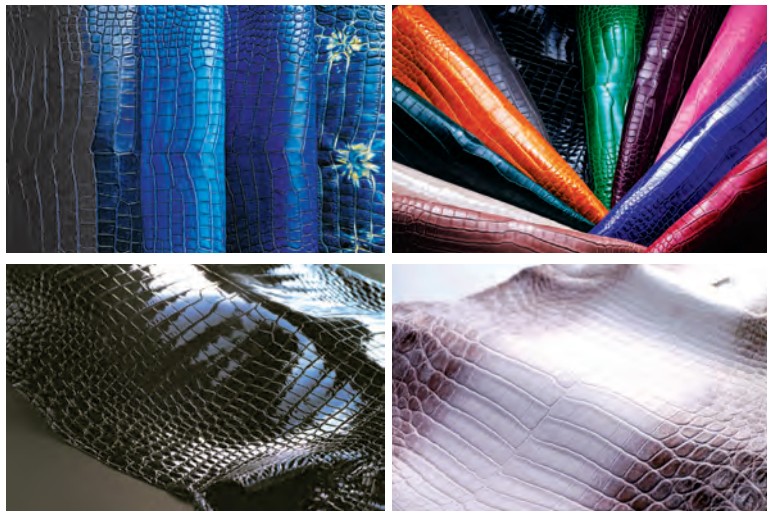
パプアニューギニア原産のクロコダイルは2種、POROSUS（ポロサス：通称スモール）とNOVAEGUINEAE（ニューギニアワニ：通称ラージ）です。

パプアニューギニアの唯一のスモール養殖場がラエにあり、原皮を塩漬けの状態を輸入し、日本の工場で鞣しと染色を施します。養殖場の高い技術と熱意により良質なクロコダイルをメゾンブランドにお届けする事が出来ております。

また、パプアニューギニアは野生の捕獲が許可されている数少ないエリアで、弊社は野生のワニ（主にラージ）を流通させることで、奥地の人々の生活を支える一助になればと願い、買付を続けております。

クロコダイルの仕上げは、グレージング仕上げや半艶マットが主流ですが、弊社は独自に研究を重ね、日本古来の藍染をクロコダイルに施すことで、クロコダイルの魅力と天然染料の魅力を融合し、より付加価値の高い製品となるよう尽力しております。

1月初旬も検品の為、パプアニューギニアを訪れておりました。暴動が起き16名の犠牲者が出てしまった悲しい出来事に遭遇しました。犠牲者の方々に哀悼の意を捧げると共に、パプアニューギニアの平安をお祈り申し上げます。



訃報

当協会初代会長・名誉顧問 谷口誠様におかれましては、令和6年1月14日（日）享年93歳にてご逝去されました。

谷口元会長は2002年の当会設立時から会長を務められ、会の礎をお作りいただきました。また多くのご指導を賜りました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

谷口誠様の主なご経歴は次の通りです。

1983～86年 パプア・ニューギニア

駐劄特命全権大使

1986～89年 在ニューヨーク

日本政府国連代表部特命全権大使

1990～96年 OECD 事務次長

事務局からのお知らせ

あけましておめでとうございます。

本年最初の「ごらくちょう」をお届け致しました。

橋会長のご挨拶のとおり、波乱の年明けとなっておりますが、協会はTOKTOK会の開催、PNGへの視察旅

行の開催など予定を一つ一つ実行して参りたいと思っております。皆様の御協力を何卒よろしくお願いいたします。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：24社 ◆ 個人会員：103名（2024年1月25日現在）

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン(株)内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/